

TAKI no TAWAGOTO

By 濱 博一

本欄担当は、書くと約束をしてくれるのですが…。締め切りは過ぎて行き…。今月も代筆で失礼致します。

早いもので本年も師走号となりました。光陰矢のごとしと言いますが、それにしても年々早くなっているように感じるのは、気のせいでしょうか？

昨今の急激な世情の変化は、丁度カーブを曲がろうとしている車の中から外側の間近な景色に気をとられているようなものだと思います。カーブを曲がっている最中、直ぐ外側だけを見ていると目まぐるしく景色が変わり、下手をすると酔ってしまいます。こんなときは、ドライバーのように、進行方向のかなり先、それも行く道が一点に結ぶ程の先を見つめていると、景色の変化もそれほどでもなく、運転を誤ることも無いのではないかと…。

激動する景況や世界情勢を前に、企業や地域の経営方針とはかくあるべし…なのかもしれません。この道の行く先は何処であるか？今まさに激動の時代であるからこそ、後世に残る経営哲学・人生哲学が試されているのでしょうか。

そこまで大袈裟ではなくとも、日常の細事に疲れを感じたら、ほんの数分でも結構ですから座禅とまでは行かずとも、簡単な瞑想をお勧めします。コツは調身調息調心。身を調べて椅子に腰掛け、軽く目を閉じて息を調え、自ずから心が調ってきます。長息は長生き。呼吸も徐々に静かに長く深くしていきます。吐くときはゆっくりと、吸うときは自然にスッと。どちらも口は閉じて鼻から。腹式呼吸ができれば最善ですが、特段意識しなくても構いません。

如何でしょう。心が落ち着き、少しだけ軽くなったように感じませんか？

気ぜわしさに流されず。見失うことなく。年の瀬・この時代を乗り切りましょう。

6月発生した岩手・宮城内陸地震の被災者の皆様に心より、お見舞い申し上げます。

さて、この震災は専門家の緊急調査で、**これまでに無いほど被災地区が狭い範囲に限定されている**ことが明らかになりました。**東北の殆どの地域・観光地は全く無事**です。

にも拘らず連日の報道により、広域災害と誤解され、旅行のキャンセル・予約が入らない状況が既に東北全域に及んでいるようです。**被災周辺地域への風評被害は、経済復興の最大の障害**であり、被災地をフォローする周辺地域に対して余りにも冷酷です。どうか冷静な情報収集と判断をお願いいたします。(濱)

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。



2008/12

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167

石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

Email usric@neting.or.jp

2008/12

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

師 走



甲府舞鶴城にて
by hama

**がんばれ！東北
負けるな岩手・宮城！**

岩手・宮城内陸地震
風評被害対策勝手連プロジェクトに賛
同します！！

寄稿『縁(えにし)』

五大開発株式会社 代表取締役 小田 兼雄

歌の文句ではないけれど、田舎を出てから早四十年が過ぎた。人生の三分の二以上を、此処金沢で過ごしたことになる。早いものだ。

私が生まれたのは静岡県掛川市の在郷で、育ったのは隣町の森町である。どちらも雪にはとんと縁の無い温暖な地域である。何しろ、高校卒業までに経験した雪景色といえ、年に一度か二度、綿菓子を細かくちぎったようなふわふわの雪が舞い落ち地面に着くと同時に消えていく、そんな程度のものだった。そんな淡雪しか知らない私が、昭和五十六年の豪雪を経験し、毎年の除雪をイヤと言うほど体験して、今ではもうスッカリ北陸人になっている。そんな私に本欄寄稿の話があった。

参考に、と手渡された九月、十月、十一月の寄稿文を読ませていただいて驚いた。執筆のお三方とも私の生まれた掛川市在住ではないか。しかも、平成の大合併で掛川市となる前に大須賀町・横須賀と呼ばれていた地域の人達だ。何を隠そう、大須賀町は妻の生まれ育った所なのだ。そして、今も実家がある。したがって、結婚以来毎年何回かは家族でお邪魔しており、大変身近に感じている地域なのだ。行く度に必ず顔を出す店もある。遠州横須賀御城下の「まるか」は妻と用達のラー

メン屋となっているし、御衣黄桜の羊羹も買い求めたこともある。加えて、三熊野神社の名前も酒の話も耳には馴染みとなっているのだ。

そう考えると、不思議な「縁(えにし)」を感じずにはおられない。「縁は異なるもの味なもの」とは男女のことを言い表しているそうだが、遠く離れたこの金沢で、まさか妻の故郷の話題に接するとは思ってもみなかった。ましてや、今回のこの話が無ければ、熱い思いの人達が「まちおこし」に一肌も二肌も脱ぎ頑張っていることを、知ることは無かっただろう。まだお会いしたこともなく私が一方的に情報を得ているだけだが、正に紙上での「縁」と言っても良いだろう。これで大須賀に行く楽しみがひとつ増えた、というものだ。

「仕事ができるかどうかは、どれだけ素晴らしい技術や知識があるか、ではなく、どんな人と知り合いか、がより重要だ」と聞いたことがある。人と人との繋がりは、人生に彩を添え、心を豊かにしてくれる。そういった意味では、縁を取り持つこの「アスリックニュース」は「縁は異なるもの味なもの」を実現してくれる仲人なのかもしれない。



【プロフィール】
(おだ かねお) 掛川市の在郷で産声。遠州森町の中心街近傍で成長。金沢市でメタバに。「家族」妻一人、子供四人、母一人(年齢来年六十に)

濱のしづなを『しあわせ』

今日では、幸福の「幸」の文字を当てて「しあわせ」と読んでいます。

最近、ある講演会でこんなお話を伺った。「幸」の字には、お金が埋まっている…

講師はかなりの時間、聴衆の反応を待った。どれだけ頭を捻ってみたところで、「幸」の文字に「金」らしき影は見当たらない…。

一人が気づく。幸の字は、土の下に羊。しかも、幸の字は上下を反対にしても土に羊。この文字は、上下にも、左右にも完璧に対称になっている。

幸いになるためには、土に種を蒔かねばならぬ。やがて芽が出て実りになる。土に蒔く種とは、親切だとその講師はいう。

ややあって、何気なく文字を眺めていたとき、ふと気づいた。鍋蓋に羊で「辛」。講演を継ぐならば、お金に蓋をしておいては、あまの里(うら)はな(うら)い。

この八月号で、「縁」と「有難い」の意味を考えた。九月号では、「恩」とそのお返し先。十月号では痼癢を感謝と苦に分かつこと。先月号では、「馳走さまと縁」下の働きについて。この四ヶ月にわたり小欄に通ずるものは、陰なる働きに對する気づきの感性と、そこから湧き出す感謝の歓びだと、既にお気づきの方も少なくないことと思ひ。

しあわせとは、本来「仕合わせ」や書合のこころ。

家庭のしあわせは、夫婦が互いの役割を果たし、それぞれの仕事を合わせあつて行くなかにある。

職場のしあわせは、メンバーが互いの役割を果たし、それぞれ仕事を合わせあつて行くなかにある。

「仕、合わせ」にも相手や仲間に対する心配りがあつてこそ、成り立つものだ。この心配り・心配りが「親切」となつて現れるのだらう。

親切はしかし、恩着せがましい態度・感情が見え見えの場合、全くの逆効果になる。「親を切る」と書く親切。意味は、「親心、切なる」だ。この場合の「切」は、刃物でモノを切る際、切られるモノとびったり接している様子を意味する。つまり、親心のよつにびったりと相手の心に寄り添うこと。こちらの価値観を押し付けるものではなく、決してない。

何気なさと、相手への寄り添う心への常なる自己確認。このささやかな感性の研ぎ澄まされた接点。「こころ」で、その機微の尊さと美しさがあふれる。そして、これらに木目細やかに共感・共鳴する喜び。しあわせとは、本来そのようなものなのだらう。

今年も暮れかかっている。より多くの人々が親切を種として土に蒔き、仕合わせ機会を増やして、幸せになつていただきたい。

今年一年、有難うございました。来年もどうぞ宜しくお願ひ申し上げます。 三拝九拜

10月号において「東北新幹線青森開業」は2011年3月が有力と述べたが、11月にJR東日本から2010年12月と発表され、まさにあと2年となった。青森開業に伴い、交通機関それぞれにおいて大きな変化が予想され、決してプラス面だけではない。本号では、筆者の予測を中心に、三点について述べることにする。

第一点は、新青森駅が津軽地域を駅勢圏とし、現在よりも広域的な駅になるのではないかということである。新幹線の発着駅である新青森駅は、青森駅から奥羽本線で西に3.4kmに位置する。新幹線開通後、新幹線からの乗降客は下りが青森駅、さらに函館方面、上りが弘前方面への乗り換え駅ともなる。JR東日本は新幹線の発着に合わせたダイヤ編成を実施するとしており、弘前駅から新青森駅で新幹線乗車と現在の八戸駅で新幹線乗車を比較すると、仙台や東京への所要時間が1時間近くの短縮予想となる。

新青森駅は青森市西部に位置するため、弘前市、五所川原市、黒石市などの市の中心部から、車で40～50分ほどの所要時間である。2002年に東北新幹線八戸開業時に八戸～弘前に「特急つがる」の運転が開始され、青森駅から弘前駅まで(約37km)のほぼ中間に位置する浪岡駅に停車することになった。このとき、黒石市や周辺町村から浪岡駅でパーク＆ライドする利用客が予想外に多かったことから新青森駅でも同様に、車からの新幹線乗り換えが考えられる。さらに、青森市と五所川原市、青森市と黒石市などの間を運行している路線バス(弘南バス)が新青森駅経由になることが考えられ、津軽地域に向けたバスターミナルとなろう。新青森駅が津軽地域を駅勢圏に含んでしまうことにより、津軽地域の中心となってきた弘前駅の地位低下が危惧される。

第二点は、並行在来線問題である。新幹線八戸～新青森駅開業に伴い、東北本線の八戸～青森が第三セクターの「青い森鉄道」に引き継がれる。すでに、「しなの鉄道」「肥薩おれんじ鉄道」、また、すでに八戸開業時にJRから引き継いだ八戸～二戸の青い森鉄道でも経験しているように、過疎地域の通勤通学客に依存する第三セクター鉄道の運営は大変に厳しいものがあり、「青い森鉄道」がさらに厳しい経営環境となる可能性が大きい。加えて、東北本線沿線の三沢駅、野辺地駅といった主要駅が新幹線軸から外れ、まちの衰退の一因となることも予想される。

第三点は、新幹線と航空路線の競合問題である。2002年の八戸開業時に三沢空港からの羽田便は4便から3便、青森空港からの羽田便が7便から6便にそれぞれ減便された。青森～東京は新幹線開業時で3時間40分、その後3時間20分まで短縮されることにより、新幹線による所要時間が飛行機による乗換え等も含む所要時間より短くなり逆転するため、青森空港の羽田便の減便が予想される。東京への利便性が低下するということだけでなく、羽田空港を介し西日本各地とのアクセスが悪化し、利便性が低下する可能性がある。

第一点と第二点については交通問題にとどまらず、これまでの青森県の地域構造を一変させる可能性もあり注視していきたい。

相続について⑫

誤った生命保険の活用

今回のケースは、内縁関係にあるご夫婦の相談です。

Case Study

AさんとBさんはともにバツ1同士のカップルですが、さまざまな事情から、入籍はしておらず、いわゆる事実婚状態にありました。

しかし、籍は入っていないにもかかわらず、まったく夫婦と変わらない生活を10年以上送っていることから、万一のことを考えて、お互いを受取人とした生命保険に加入したい旨を、職場に出入りしている生命保険会社の営業の方に相談しました。すると内縁関係なので、死亡保険金受取人にはお互いを指定することはできないが、とりあえず申込書に記載する受取人は法定相続人とし、一人ずつ遺言状に証券番号と死亡保険金受取人をお互いの名前にして作成しておけば問題はない、といわれて加入しました。

Answer

死亡保険金受取人になれるのは、配偶者および2親等以内の血族(祖父母、父母、兄弟姉妹、子、孫等)の範囲となります。

ですから、AさんBさんカップルのように内縁関係にある場合は、第三者受取ということになり、各々を死亡保険金受取人に指定することはできません。

では、今回のケースのように遺言状を作成しておけば、大丈夫なのかというとそれは大きな誤りです。

民法では、死亡保険金は受取人固有の財産と定義されておりますので、保険金の受取人に関する遺言状は無効になります。

また、今回のように法定相続人という指定は、すべての法定相続人が受取人になりますので、戸籍を元に全員を探し出して、保険金の按分と、誰が代表して保険金を受け取るか、ということまでを決めて保険会社に連絡しなければなりません。

これは大変な時間と労力が掛かりますので、私はこのような指定はするべきではないと思います。

ただ生命保険会社によっては、第三者受取でも、個々の事情を調査、勘案のうえ、ケースによっては契約をお引き受けする場合がありますから、あきらめずに率直に相談してみたいはいかがでしょうか？

11月15日に、鹿児島で観光キャンペーンを行ってきた。

来年夏に、富士山静岡空港から鹿児島空港へ直行便が飛ぶからだ。フジドリームエアラインズという航空会社が地元で誕生し、新たに購入することを決めた人気機種ブラジル製の76人の乗りのエンブラエル170型が飛ぶ。

今回の観光キャンペーンは、鹿児島県の皆様方にその真新しいボディーで富士山を眼下に静岡入りをしていただくための動機付けなのだ。

キャンペーンの場所は鹿児島中央駅のAMU広場。

当初は、ちょっとしたブースを出してパンフを配る程度だったものが、広場にはクリスマスを前にステージが用意されているから、これを使って観光宣伝をという話になってしまった。

「ここで何やるのよ？」と隣席の小生が名付けたキャンペーン部長に尋ねると少々困り顔。観光PRとクイズやゲームそれだけでは時間が持たない。

フジドリームエアラインもPRのための紙飛行機づくりのワークショップをやるとのことだった。

でも人を集める華が、ステージにない。ステージに映えるような踊り手、歌手を静岡県から連れて行くとなれば予算は足りない。ならば、鹿児島県庁の知り合いに頼もう、「Jネット47」という頼もしいネットワークがあるじゃないか、「KAGOSHIMA熱闘会議」というまちづくりネットワークもある。彼らならきっと何かしてくれる。

すぐに返事が来た。鹿児島県庁の米丸さん率いる幸田優バンドが、そして枕崎市役所議会事務局の平田さんが指導する枕崎火乃神太鼓も出てくれることになった。しかもボランティアで、静岡県との友情・応援団としてだ。静岡県から誰もいないのでは寂しい。これまた来年開催する国民文化祭2009静岡大会のPRボランティア

の紙芝居芸人「三ツ沢グッチ」さんに頼んだ。紙芝居といえばおっちゃんの自転車、水あめだ。これら鹿児島に送っての熱演をしていただいた。

10:30から18:00のステージは入れ替え時間が15分を切るほどのタイトな時間で、進んだ。

幸田バンドの「肥薩オレンジ鉄道応援歌」は特に良かった。
<http://www.free-sound.jp> (ここをクリックすると聴くことができるので、是非どうぞ)

他にLET'S IT BE、そして佐野元春の曲が続いた。(somedayでないのが残念)

次は「枕崎火乃神太鼓」の登場だ。小学3年生の女の子の太鼓には参った。小さな体が操るバチは確かなものだった。小4年の男の子も、高校生の太鼓の入れ替えの時のチャンポンの独奏も、お見事！それまで、物足りなさを感じていたキャンペーンへの注目度が一気に高まった。太鼓の演奏バックの静岡の文字もポスターも印象に残っただろう。

翌日は鹿児島県の太鼓の大会、これに2位以内に入れば全国大会しかも今年は浜松が会場とのこと。「待ってるよ！皆で応援に駆けつけるから」と元気づけた。が、翌日平田さんから「残念僅差で3位。皆泣きじゃくった」との連絡が入った。

悔しいのは、君らだけじゃない、浜松でどんなもてなしをしようか勝手に想像していた私もだ。富士山静岡空港は、きっと鹿児島との草の根交流を支えてくれることなるだろう。

来年もまたキャンペーンに来るから、よろしく。富士山静岡空港発のピカピカの飛行機に乗ってね。

※写真は紙芝居芸人「三ツ沢グッチ」と「枕崎火乃神太鼓」

